記念講演会
10月30日（日）

筑紫の石製表飾（石人石馬）と古墳文化

柳　沢　一　男（やなぎさわ・かずお）
宮崎大学助教授

1．石製表飾とは

ここでいう石製表飾とは、古墳時代中期（5世紀）から後期（6世紀）にかけて、古墳墳丘上やその周囲に立て並べられた各種の石製品の総称である。一般に石人石馬とよばれるが、しいて石製表飾と呼ぶのは、この石製品が石人石馬の名称の由来となった人物や馬以外に、武器・武具・家・舟、動物などの各種の形態があるため、限られた品名で総称した場合の混乱を避けるためである。

これまで石製表飾が発見されているのは、九州中・北部の福岡・大分・佐賀・熊本・宮崎県と、山陰地方の鳥取県である。同じ造形物でも、土（粘土）を素材とする形象埴輪が古墳の分布する列島全域で採用されたのに対して地域色が強い。素材となった岩石は、九州の場合が阿蘇溶結凝灰岩（以下、阿蘇石という）、鳥取県では角閃石安山岩である。いずれも加工に適した適度な硬度の岩石で切り出し易い。こうした石材は列島の各地で産出し石棺や石室材などに利用されているが、墳丘上に樹立するための造形品をつくりだすことはなかったから、装飾古墳とともに九州の古墳文化を際立たせる要素といってよい。

2．石製表飾のプロフィール

石製表飾は高さが2メートル近い大型品から、まれに高さが30cm程度の小型品まである。その品目には各種の自由なポーズをとる人物のほか、馬・鶏・猪などの動物、甲冑・刀・盾・靫の武器形、家・椅子・舟・壺などの器材形、石見型盾形や笠形と呼ぶ特殊な製品など多種多様である。こうした石製品の種類は、古墳祭式を構成する形象埴輪や木製品と共通する。形象埴輪や木製葬具よりも遅れて出現し、それらと同一の表現形態をとることが多いから、石製品はそれらをモデルにして製作されたとみることができる。いいかえれば、石製表飾は土製や木製の造形品を石に置き換えたものである。

これまで石製品が見つかっている古墳（樹立古墳不明例を含む）は全部で23例、そのうち熊本県が11例ともっとも多く、7例の福岡県がこれに次ぐ（表1参照）。この2地域で大半を占め、他は大分県2例と佐賀・宮崎県の各1例、そして九州外では唯一鳥取県淀江町石馬ヶ谷古墳例があ

るにすぎない。福岡県例はすべて南部の筑後地方、佐賀県例も南部にあるから、石製品分布の中心は有明海に面した地域といってさしつかえない。

石製表飾を採用した古墳は、6世紀前葉以前の場合、それぞれの地域を代表する大型古墳＝首長墳、ないしそれに次ぐ規模の古墳であった。たとえば、大分県臼塚・下山古墳や福岡県石人山古墳などは各地域最大級の前方後円墳である。もし例外があるとすれば、舟形石製品を出土した熊本県小野崎例（古墳の実態不明）がその候補となるにすぎない。しかし6世紀中葉を過ぎると、大型古墳以外にも石製品を採用する古墳が出現する。直径20mに満たない円墳で、福岡県童男山古墳群や熊本県北原1号墳などがそうした例である。

石製表飾は形象埴輪のように、多種の器種が組合わさって樹立されることはめったにない。2・3の例を除けば、1基の古墳に樹立された石製品は1個体もしくは数個体である。石製表飾の代表例として取り上げられる岩戸山古墳は、6世紀前葉の形象埴輪のほとんどを石製化している。だが、こうした事例は他にない。

また石製品を樹立した古墳の多くは形象埴輪も採用している。大分県臼塚古墳や石人山古墳では石製品と同形の短甲形埴輪が認められるが、石製品のほうがはるかに大型で樹立位置も異なる。岩戸山古墳でも石製品と同形の多種の形象埴輪があるが、どれも石製品のほうが大きい。石製表飾の謎を解く鍵は、採用した古墳の時代と規模、石製品の種類とサイズ、そして樹立の場所にありそうだ。

3．石製表飾の変遷

• 被葬者守護の威具

最初に製作された石製品は短甲形であった。5世紀初～前葉に作られた大分県臼塚古墳の墳丘くびれ部上に、最古の石製品と考えられる2個体の短甲形石製品が立っている。この二者は作りに多少の違いがあるが、高さ1.5mあまりでほぼ同形・同大、短甲・草摺の細部表現の刻出がないものの、外形はきわめて写実的なつくりである。後円部から2基の舟形石棺が埋置されており、それぞれの短甲形石製品は各石棺埋葬に対応して製作・樹立されたと想定されている。

東九州にやや遅れて5世紀前葉に有明海側でも製作が始まった。出土古墳不明の福岡県弥平山（稲荷山）の短甲形石製品が最初らしい。これに続く石神山古墳・石人山古墳の甲冑形は、形象埴輪に例を見ないほど立体的で精緻な文様表現が行われている。おそらくこの二者は、同一工房で前後して作られた兄弟関係の製品であろう。

以上のように初期の石製品は、同時期の形象埴輪から甲冑という武具形を選択し、より大きく作られた。樹立位置も形象埴輪と違って埋葬施設を意識し、石棺・石室の傍らや正面に置かれたようだ。武具のもつ威力によって寄りつく邪霊を追い払い、被葬者を守護する性格を付与されたのであろう。

• 威儀・聖性表示への変貌

5世紀後葉、石製品の製作対象が武具形以外へと拡大した。二つの例をあげよう。

佐賀県西原古墳は現存しないが、破壊時に石棺とともに笠形の棒状基部の一部が採集され、加えて偶然の機会から石見型盾形の一部が再発見されている。

いま一つの江田船山古墳で著名な熊本県清原古墳群には以前から短甲形が知られていたが、1960年代に家形・椅子形・刀形の3種の石製品が発見された。残念ながら、周辺から集められた石積みの中にあったので、もともとの樹立古墳は不明である。しかし清原古墳群では6世紀前葉以降の古墳が未発見だから、それ以前の製品とみてよいだろう。

こうした石製品群の登場は、従来の武具の威力に、埋葬された首長の威儀を整え、その聖性をより強く表示する性格を加えながら、多種多量配列への道を準備したのである。

• 威圧する石製品群－岩戸山古墳－

福岡県の八女台地上にある岩戸山古墳は北部九州最大というだけでなく、6世紀前葉に限れば、近畿以西で最大規模の前方後円墳である。墳長138m、周囲に空堀と外堤がめぐり、後円部外堤の外側に一辺43mの方形区画（別区）を付設している。すでに指摘されているように、この古墳は継体紀に反乱記事がある筑紫君磐井の墓の可能性が高い。

岩戸山古墳の場合、形象埴輪が方形区画に、石製品が墳丘上と方形区画および外堤の一部に樹立されていたらしい。墳丘上の石製品は、1953年の発掘調査によって円筒埴輪列の内側に盾・刀・靫形などの配列状況が明らかにされ、「石人石盾各々六〇枚」と記された筑後国風土記の記事を彷彿とさせる。

風土記で別区と表現された方形区画内からは多種の石製品が採集されている。人物形では武人・文人、裸人や褌をつけた人物のほか、さまざまな姿態表現の人物があり、大・小2種が知られている。そのほか馬・鶏・猪などの動物形、刀・靫・盾・壺（容器）などを模した器財形、石見型盾形や笠形などの特殊品もある。風土記は別区を衙頭と呼び、政所と解説する。そして内部の人物像群の様子を盗人を裁く情景とみなし、傍らに石殿・石蔵、石馬などが置かれていると記述している。今となっては石製品配列の実態を知る手がかりはないが、その意味するところについてはほぼ風土記逸文どおり解釈できるとする説と、石製品のモデルとなった形象埴輪祭式＝殯儀礼のうち、とくに重要な首長権継承儀礼と饗宴の場を表示したとみる説に分かれる。私は後者の立場である。

このように、可能な限り形象埴輪の石製品化をはかった岩戸山古墳のあり方は、たしかに従来の石製品製作の枠を大きく踏み出すものであったが、のちに続かなかった。その点に留意すれば、岩戸山古墳石製品群の異常なまでの特異性は、この古墳に埋葬されるべき人物（築造主体者）の政治的位置と性格に求められるべきであり、有明海沿岸域の首長層間の共有した石製品製作・樹立の思想性を大きく転換させることはなかったのである。

• 多様な人物形の登場

従来、石製品は岩戸山古墳後に急速に衰退するという考え方が一般的であった。しかし石製品全体の再検討や近年の新資料からみると、その後も継続することが判明する。

たとえば、稚拙な手足表現をともなう人物形石製品＝石人は岩戸山古墳で最初に出現し、むしろ、それ以降に盛んに作られている。6世紀中葉から後葉の熊本県チブサン古墳・フタツカサン古墳・富ノ尾古墳群や、福岡県童男山古墳群の例などがそれである。そこには武人だけでなく、女性や平服人物がみられ、また赤子を背負った母子像も登場する。しかしいずれも1基1体の石製品を樹立するのみで、岩戸山古墳でみられたような多種多量樹立はない。

これらの人物像はもちろん人物形埴輪のなかに認められる形態だが、どのような理由から特定の人物像を石製化の対象としたのであろうか。この段階の石製表飾は、被葬者を守護し、威儀を整え、首長の聖性を表示するための呪的・権威的な性格が薄れ、より身近な親しみを感じさせる石像物となっている。こうした変化は他界観の成立と埋葬儀礼の転換と関連するようだ。つまり6世紀を前後する頃から横穴式石室内に食物供献＝容器副葬が顕著となるが、これは埋葬された人々が親しき縁者の霊達と黄泉国に生きると観念されたことを意味しよう。親しみを覚える人物像を選択したのは、霊魂の生きる黄泉国の傍らに立ち亡き人々を見守るという意図によるのであろう。

石製表飾は、首長層に独占されていた権威表現から性格を大きく変化し、これまで樹立することができなかった階層も採用することが可能となったが、六世紀後葉に、形象埴輪とともに石製品の製作・樹立も終焉を迎えたのである。

4．石製表飾からみた有明首長連合の成立と解体

石製表飾の分布と消長は古墳時代九州の地域性理解に重要だが、さまざまな要素を含む古墳の諸関係から古代の政治関係を推定するうえで大きな意味をもつ。

有明海は長崎・佐賀・福岡・熊本県に囲まれた広い沿岸域が広がり、周辺山地から流入する河川流域に広大な沖積地を形成している。主要な古墳は大河川沿い沖積地をのぞむ台地、丘陵上に点在する場合が多い。

佐賀県（肥前）では佐賀平野北部に、福岡県南部（筑後）では筑後川と矢部川の間の久留米市・八女市と、関川流域の大牟田市・熊本県荒尾市に、熊本県（肥後）では菊池川流域一帯、緑川から宇土半島基部、氷川流域、球磨川河口部に大型古墳の分布がみられ、それぞれの地域が政治的にまとまり、有力な地域首長を輩出していたことがわかる。

古墳の詳細は省略するが、注目されるのは4世紀代からいくつかの地域首長間に密接な交渉があったことである。とくに菊池川流域、氷川流域の首長と佐賀平野北部の首長、菊池川流域と関川流域首長の間に顕著で、菊池川・氷川流域でつくられた阿蘇石製の舟形石棺が有明海を輸送さ

れて肥前・筑後の有力な古墳に採用された。ふつう遺体を安置する棺は地域ごとの特徴をもつことが多く、同じ形式の棺を用いることは同族関係の証となる。このように舟形石棺が製作地を離れて広域に点在するのは、有明海沿岸部の有力首長層間に婚姻を媒介とした同族関係が形成されていたことを示す。

また5世紀前葉には、石棺の短壁に出入用の穴を開けた横口式家形石棺がつくられる。この石棺は横穴式石室の影響下に出現したものだが、それを最初に採用した古墳は広川町石人山古墳である。この形式の石棺は、舟形石棺5世紀末葉まで有明海沿岸域の有力な古墳にのみ採用されている。この間も菊池川・宇土半島・氷川流域では舟形石棺をつくり、またその製品は九州のみならず瀬戸内・畿内に輸送されているから、横口式家形石棺は有明海をめぐる有力首長層だけが採用できた王者の棺であった。あるいは横口式家形石棺を採用した首長たちは擬制的な同族関係を結んでいた可能性もある。ちょうどこの頃、兵庫県の竜山石で製作された長持形石棺が、大王ならびに周辺地域の大有力首長だけが採用した棺制と等しいメカニズムではなかったか。

石製表飾に戻ると、岩戸山古墳以前に採用した古墳は1・2を除いて有力な地域首長墓である。古墳の埋葬施設が判明しているものは、石人山古墳以前が舟形石棺、それ以降は横口式家形石棺である。このように横口式家形石棺と密接な関連をもつ石製表飾のあり方は、それらを共通とする首長層の結合関係、いいかえれば広域首長層間の政治的連合が結ばれていたことを示す。その政治連合を有明首長連合と呼ぼう。この首長連合に参画したのは、肥前南部・筑後・肥後の有明海沿岸部の首長であったことが横口式家形石棺と石製表飾の分布からわかる。

有明首長連合が成立したのは5世紀前葉である。首長連合を代表する最初の盟主的首長は筑後の石人山古墳の被葬者であった。石人山古墳の石棺は肥後北部・菊池川流域の石工、直弧文装飾は肥後南部・宇土半島の石工、石製表飾は筑後南部の石工らの手によって製作された。こうした広範囲からの工人動員は、工人を把握していた首長層間の結合なくして実現しない。

その後の有明首長連合の盟主的首長は、引き続いて筑後の首長（石櫃山古墳・浦山古墳被葬者）が後続したが、5世紀後葉ころ首長連合の力量は相対的に低下したらしい。これは列島全体の有力首長墓の小型化＝王権の規制の強化に連動する。

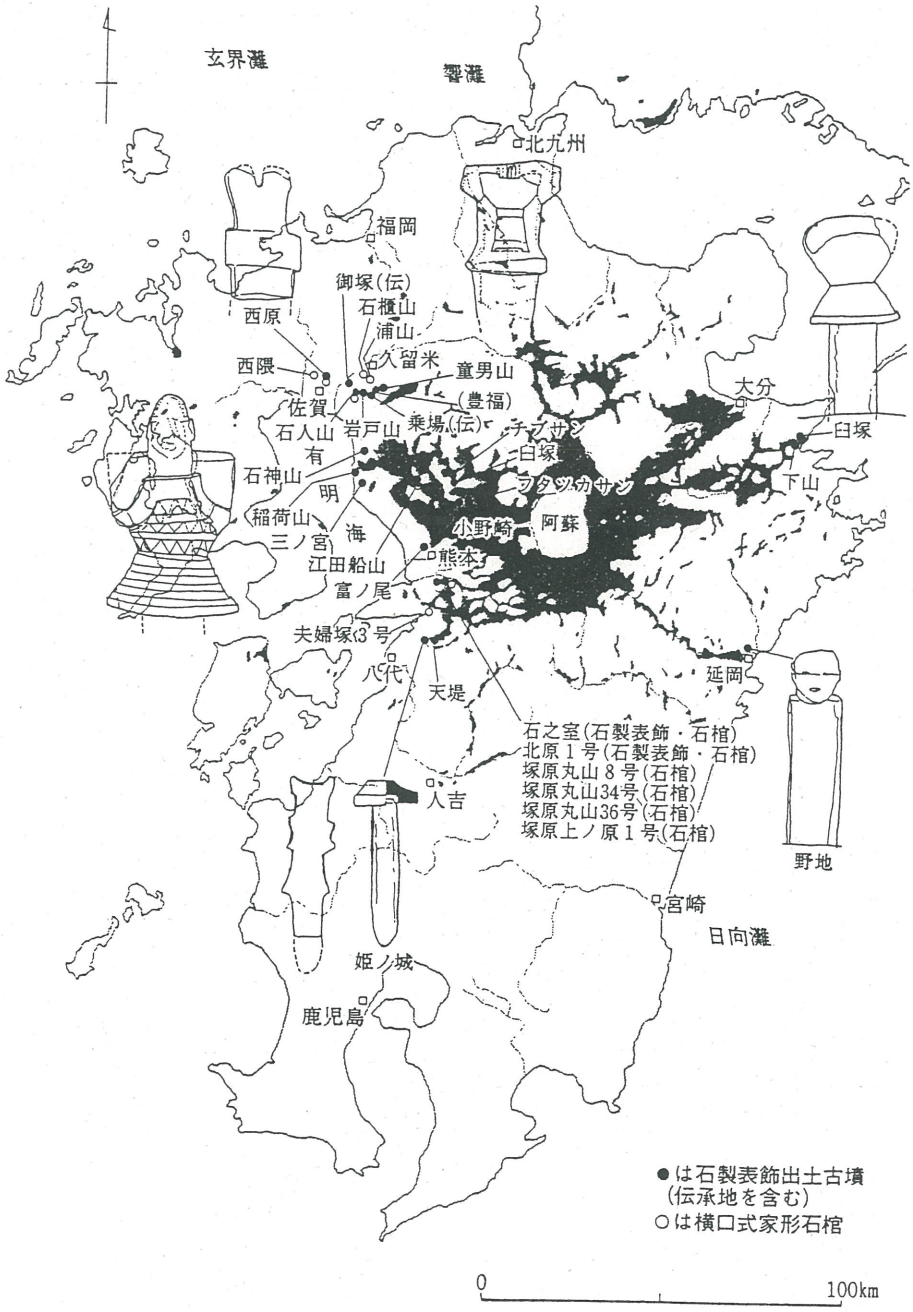
6世紀前葉の岩戸山古墳は列島規模で首長墓の小型化が進行するなかで異例である。岩戸山古墳被葬者については筑紫君磐井の可能性を述べたが、同時に磐井は首長連合の盟主の位置にあって連合の再編と強化につとめたのであろう。岩戸山古墳の石製品は、筑後、肥後北部・南部の石工を動員して製作したことが石製品の種類から判明している。

磐井の乱の契機と実状が継体紀が記すようなものであったかわからないが、磐井が筑・豊・肥の勢力を結集したという記載は、こうした有明首長連合を背景とした可能性が高い。磐井の乱は王権側の勝利に終わり、筑後風土記は王権側の兵士が磐井墓の石人・石馬を破壊したと記録する。

古墳時代最後の内乱は終わり、有明首長連合は解体したが、首長連合に参画した各地域の首長が没落ないし断絶した痕跡を、有力古墳の推移のなかに読み取ることはできない。たとえば筑後勢力の場合、岩戸山古墳に引き続いてやや規模を減じた乗場・善蔵塚・鶴見山古墳の前方後円墳がつくられている。肥後北部の状況はいま一つよくわからないが、肥後南部でも前方後円墳が継続し勢力の衰退は認められない。地方の直接支配を進める王権にとっても、地域支配に絶対的権威をもつ有力首長の協力なしに政策を貫徹することはできなかったのである。

（参考文献）

小田富士雄　1974　「石人石馬の系譜」『古代史発掘』⑦　講談社
小田富士雄　1985　『石人石馬』　学生社
高木　恭二　1987　「九州の石棺」『東アジアの考古と歴史』　同朋社
橋本　博文　1980　「埴輪祭式論」『塚廻り古墳群』（群馬県教育委員会）
水野　正好　1977　「埴輪の世界」『日本原始美術大系』3　講談社
柳沢　一男　1987　「石製表飾考」『東アジアの考古と歴史』下　同朋社
柳沢　一男　1992　「石人石馬」『古墳時代の研究』9　雄山閣


玄界灘
響灘
北九州
福岡
御塚(伝)
石櫃山
浦山
西原
久留米
童男山
西隈
(豊福)
佐賀
石人山
岩戸山
乗場(伝)
チクサン
大分
臼塚
有
臼塚
石神山
明
フタツカサン
下山
稲荷山
三ノ宮
海
小野崎
阿蘇
江田船山
熊本
富ノ尾
夫婦塚3号
八代
天堤
延岡
石之室(石製表飾・石棺)
北原1号(石製表飾・石棺)
塚原丸山8号(石棺)
塚原丸山34号(石棺)
塚原丸山36号(石棺)
塚原上ノ原1号(石棺)
人吉
野地
宮崎
日向灘
姫ノ城
鹿児島
●は石製表飾出土古墳
(伝承地を含む)
○は横口式家形石棺
0
100km

石製表飾出土古墳一覧

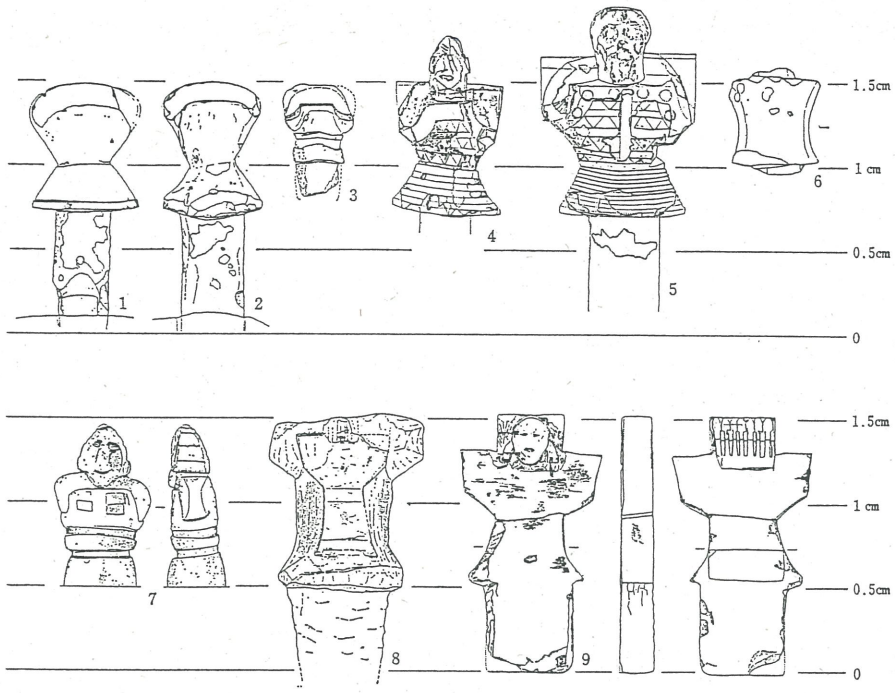
※ 古墳名欄の括弧は、樹立古墳不明もしくは現存しないもの

県名	古墳名	所在地	墳形・規模（m）	石製品名	古墳埋葬施設など
大分	臼塚古墳	臼杵市熊崎	前方後円・87	短甲2	舟形石棺2
	下山古墳	臼杵市下山	前方後円・75	短甲1	変形家形石棺
福岡	石人山古墳	八女郡広川町一条	前方後円・120	甲冑1・人物か1？	横穴式石室・横口式石棺
	岩戸山古墳	八女市吉田	前方後円・138	各種人物・馬・鶏・猪・盾石見型盾・笠・靱・刀など	不明
	石神山古墳	三池郡高田町上楠田	前方後円・54	甲冑1	舟形石棺
	童男山3号墳	八女市山内	円・16	人物1	横穴式石室（複室）
	童男山22号墳	八女市山内	円・？	人物1	横穴式石室（複室）
	（弥平山）	大牟田市稲荷山	？	短甲1	樹立古墳不明
	（豊福）	八女市豊福	？	人物1・？	樹立古墳不明
	（乗場古墳）	八女市吉田	前方後円・70	？	現在不明
	（御塚古墳）	久留米市大善寺	帆立貝形・78	？	現在不明
熊本	三の宮古墳	荒尾市平井手	前方後円・42	人物1	横穴式石室か
	チブサン古墳	山鹿市城	前方後円・45	靱1	横穴式石室（複室）
	臼塚古墳	山鹿市石	円墳・約30	靱1	横穴式石室
	フタツカサン古墳	菊池市木柑子	前方後円・42	人物1	横穴式石室か
	石ノ室古墳	下益城郡城南町塚原	円墳・約30	笠1	横口式石棺
	北原1号墳	下益城郡城南町塚原	円墳・？	盾1	横口式石棺
	天堤古墳	八代郡竜北町野津	前方後円・不明	笠1	不明
	姫之城古墳	八代郡竜北町大野	前方後円・85	笠・靱・石見型盾	不明
	（清原古墳群）	玉名郡菊水町江田	？	短甲1・家1・椅子1・刀	京塚古墳か
	（小野崎）	菊池郡七城町小野崎	？	舟1	箱形石棺か
	（富ノ尾）	熊本市池田町	？	人物1	樹立古墳不明
佐賀	西原古墳	佐賀市久保泉町	前方後円・？	笠1・石見型盾1	横口式石棺
宮崎	（野地）	延岡市野地	？	人物1	樹立古墳不明
鳥取	石馬ヶ谷古墳	西伯郡淀江町福岡	前方後円・61	馬1・人物1	不明

石製表飾種類別一覧

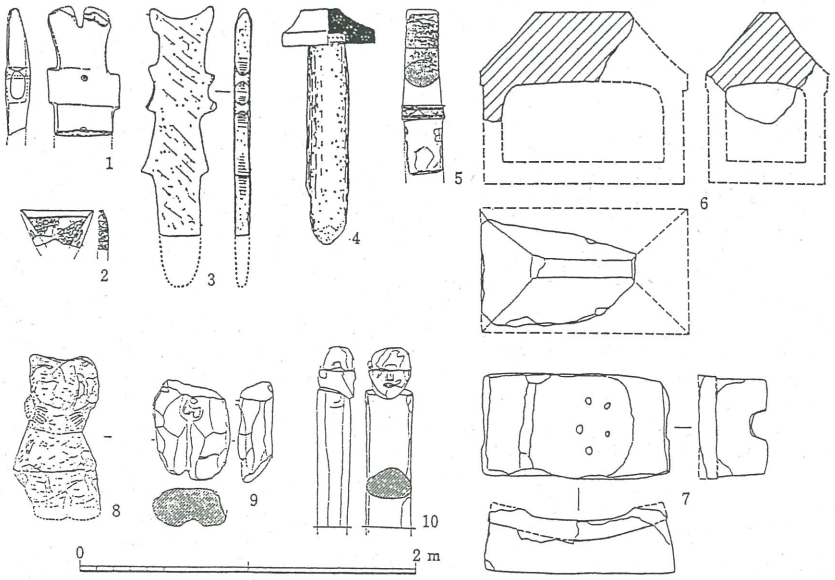
※ ○は数を確認できないもの

	出土古墳等	短甲	甲冑	舟	椅子	家	刀	盾	石見型盾	笠	靱	人物	動物	馬	鶏鳥
1期	臼塚	2													
	下山	1													
	稲荷山	1													
	石神山		1												
	石人山		1									？			
2期	清原	1			1	1	○								
	西原								1	1					
	石ノ室									1					
	天堤									1					
	小野崎			1											
3期	岩戸山						○	○	○	○	○	○	○	○	○
	姫ノ城								5	6	2				
	三ノ宮											1			
	豊福											1			
	チブサン											1			
	臼塚											1			
	フタツカサン											1			
	石馬ヶ谷											1		1	
	童男山12号											1			
	童男山16号											1			
	北原1号							1							



短甲・甲冑形，武人・人面付靱形石製品

1・2：大分県臼塚古墳　3：福岡県弥平山　4：福岡県石神山古墳　5：福岡県石人山古墳
6：熊本県清原古墳群　7：熊本県三ノ宮古墳　8：熊本県臼塚古墳　9：福岡県岩戸山古墳



各種の石製品

〔石見型盾形〕1：佐賀県西原古墳　2：福岡県岩戸山古墳　3：熊本県姫ノ城古墳　〔笠形〕4：熊本県姫ノ城古墳　〔刀形〕5：福岡県岩戸山古墳　〔家形〕6：熊本県清原古墳群　〔椅子形〕7：熊本県清原古墳群
〔人物形〕8：熊本県フタツカサン古墳　9：鳥取県石馬ヶ谷古墳　10：宮崎県野路